



妙たえの光ひかり

復刊118号

「ボランテラ」スタッフ25年

長岡市
大橋孝裕さん(61歳)

妙光寺の年7回ある主な行事では、お齋とき(食事)作りを地区ごとの当番に、また受付係を数名の方々にお願いしている。さらに夏の送り盆では、スタッフの方々が半年前から企画会議を行い、当日は100人の人たちが裏方を務める。そして毎月15日は都合のつく方が屋内外の掃除に携わる。春や秋には体力の要る境内の土木作業をお願いすることもある。

これをボランティアならぬ「ボランテラ」(松本市神宮寺前住職高橋さんの造語と呼んでいる。文字通り皆さんに支えられているのが妙光寺だ。大橋さんは平成6年に安穩廟を求め、その2年後、当時の「フェスティバル安穩」(現在の送り盆)にまだ数少ない地元スタッフとして参加した。以来25年になる。最近は夏だけでなく本堂脇の山林整備でダンブカーの運転、地下水排水用の暗渠管埋設等々の作業まで、仕事の合間に応援してくれらる。そもそも安穩廟の申込みは妻方の両親のためだった。

(院首記)(2ページに続く)



行事案内



月忌納めお札配り

12月中に地元の檀徒宅へ来年のお札ふだを持ってお経に伺います。県外でもお札を希望される方にはお送りします。

除夜の鐘・お焚き上げ

12月31日(金)

午後10時30分から、本堂で除夜法要。11時45分ころから除夜の鐘、古いお札、しめ縄等の「お焚き上げ」があります。除夜の鐘はどなたでも撞いていただけますが、先に大玄関受付で整理券を配布します。ご家族そろってお参り下さい。

※お焚き上げの古いお札等、当日お持ちになれない方は、事前に祖師堂の受付箱にお入れください。



年始参り

1月1日(土)、2日(日)

午前9時～午後4時。玄関での受付後、住職が大広間でお待ちしています。感染症対策のため、飲食は昨年同様自粛させていただきますが、お参りの人数制限はありません。ご家族そろっておいでください。なお元旦のお茶席はいつも通りに行います。



『星祭り』祈願札

人には個々にその年の星回りがあります。新年の星回りが安泰でありますようにと祈願するのが『星祭り』です。ご希望の方にはご家族で1枚のお札にして1軒2千円でお届けしています。新規お申し込みの方は、別紙申込書にご家族の氏名、性別、生年月日を書いてお知らせ下さい。継続の方は申込不要ですが、慶弔等でご家族に変更があった場合はお知らせください。新規、変更ともに12月20日(日)までをお願いします。

厄除け祈願祭

2月5日(土)、6日(日) ※両日とも11時から

厄年の早見表は別紙チラシにあります。厄年以外の方でも「家内安全」「合格祈願」等お受けいたします。同封の返信用ハガキにてお申込みください。



月例信行会とボランテラ

1、2月の信行会とボランテラはお休みで、3月から再開の予定です。3月6日(日)「信行会」、3月15日(日)「ボランテラ」です。

あとがき

夏に猛威をふるったコロナ感染も、やや落ち着きを見せています。このまま収まってもいいもの。とはいえ感染者数減少の理由は、医学者でさえよくわからないというのが、このウイルスの怖いところ。マスクと換気が大切とのことですから、冬の間も気を付けて春を待ちましょう。冬の静かなお寺へ、どうぞお参りにおいで下さい。

(新倉理恵子)



長岡市 大橋孝裕さん(61歳)

妻方のお墓を求めたことが縁

大橋さんは2人きょうだいの長男。両親は新潟市内で今も元氣にお住まいだ。一方で妻は3人姉妹の長女だった。お墓の跡継ぎ問題を抱える妻から「安穩廟にしたい」と提案された。契約に訪れたとき現院首との四方山話の中で、「何かお手伝いすることがあれば協力します」と言ったのが「ボランテラ」の始まり。その後妻方の両親を介護するため、現在の長岡市に二世帯住宅を建て同居している。

大橋さん自身も、やがてくる実家の両親の介護と墓守の問題を抱えている。「父親は分家なので現在墓は



整備中の山林内で山からの地下水を排水する暗渠工事の中の大橋さん(左側、右側は鎌田上人)

ありません。父は従来の形のお墓が希望らしいのです。でも今のところ私の長男夫婦のところは一人娘、次男は結婚したばかりのうえ、仕事柄県外から戻れそうもありません。ですから両親とも今は元氣ですが、近い内に弟も交えて相談したいと思っています」と言う。

職業は警察官

大橋さんは、42年間の警察官勤務を去年定年退職した。いまは雇用延長で後輩5人をまとめる交番所長を勤めている。在職中は駐在所勤務3年のほか、高速警察隊でパトカー乗務、本部司令室で110番通報受付、運転免許センター等々県内各地を13回転勤したそう。佐渡島など遠隔地に単身赴任したときは、「ボランテラ」には来られなかった。

妙光寺も管轄に入る巻警察署勤務時代に、忘れられない出来事がある。「夏の海水浴シーズンの海岸警備中、高波のため遊泳禁止の海で群

馬県から来た小学生が沖に流されました。助けに行った親も沖合で別のブイにつかまっていましたが、荒波にもまれて浮いたり沈んだりしていました。一刻を争うのですが、転覆の危険があるからボートは出せないと、漁船もすぐには無理だと言います。救命用具の確認は出来ていたのですが、私がロープに繋いだ浮き輪を抱えて泳いで向かいました。どうにか渡した浮き輪を陸から皆でロープを引いて、3人全員の救助が出来ました。そのときの小学生が後に警察官になったそうで、今年賀状が毎年欠かさず届くんです。これだけ勤めれば色々ありますよ」と、さらりと話してくれた。

送り盆では
駐車場整理と送迎を担当

妙光寺の夏の送り盆では、檀徒の本多さんやカナダ人研究者のマークさんと一緒に駐車場の誘導係を担当してきた。炎天下なので十分な水分補給が欠かせないなど、慣れない人には結構大変なことだ。また年によっては送迎用マイクロバスの運転手、あるいはバスの運行責任者も担当した。交通関係は専門家なので本当に

安心してお任せできる場所があった。「毎年のことなので顔なじみになった方も多くありました。来られたときとお帰りのときに顔を合わせる係です。今年もよろしくお願ひしますと言われたり、最後は無事に見送りができるとホッとしたり、楽しかったですよ」と、コロナ禍で2年連続休止のいま思い返している。

時間ができればもっとお寺に

「泊まり勤務があるので3日ごとに休みがあります。だから境内作業が忙しいときは休みの度にお手伝いに来られます。ところが日にちの決まったお寺の行事は休みがなかなか合わないんですよ。65歳の定年を迎えたら、今度は送り盆以外のお寺の行事にも参加出来るようになると楽しみにしています」と語ってくれた。

「法号」に込める思い

安

穩

小川良恵

『法号授与式』

去る11月7日に御会式(おえしき)と第十九回『法号授与式』を厳修しました。秋晴れの心地よい天気の中、当日欠席を含め12名の方が、新たに法号(戒名)を受けられました。『法号授与式』とは、仏様の弟子としての気持ちをかため、仏教徒として精進していく誓いを立てていただき、その証として授けられるのが一般に言う戒名です。日蓮宗では正式には「法号」と言います。本来であれば、今回のように生きているうちに受けられるのが本義ということ、以前の『妙の光』でも記事にしました。

『法号』の付け方は?

そうは言っても、実際には葬儀のときに「法号」を付けることがほとんどです。先日、「戒名はどのように決めているのですか?」と質問を受けました。『授与式』に参列される

方であれば、ご本人の生活信条や大事にしている思いをうかがい、似合う言葉を主に御経から引用しています。希望の文字を入れることも、もちろんできます。故人の場合であれば、人となりやご職業、印象深い言葉などをご遺族からうかがって付けています。

昨年あるお葬儀では、『温慈院妙手日慰信女』と付けさせていただきました。「温慈」は「全ての生きとし生けるものを分け隔てなく慈しみ育むこと」と、「妙」は妙法蓮華經の妙で、非常に優れているという意味があります。「手」は戒名には使うことが少ない漢字なのですが、故人は半世紀以上に渡り、助産師を続けてこられた方でした。取り上げた赤ちゃんの数に5000人に及ぶほどで、時には医師も諦めるほどの未熟児を懸命に看護して、無事に退院させたというエピソードを聞いて、この漢字しかないと思ったのです。ご遺族に、「とてもお祖母ちゃんら

『法号』を心に抱いて

しい戒名で、お参りに来られた親戚も喜んでくれた」と言ってお頂いたので印象深く残っています。なお、「日」は日蓮聖人の弟子であることを表し、その下の一字には多くの場合俗名の一部を付けます。

このように、生前に受けられる方に対しては、その名前を心に抱いて日々を明るく生きていけるような「法号」を、そして故人に対しては遺族の方がお仏壇の位牌に向き合ったときに、その人が思い出されるような「法号」を付けたいと心掛けています。「法号」は仏様に向き合う時の名刺のようでもあります。ランクが高いとされる居士や大師をつけた方が良いのかと心配される方もいますが、柔道の初心者がいきなり黒帯をつけたいのと同じように、どれだけ仏教を学んで来たかを仏様に正直に示されることが、大切であると考えています。

◆『秋のお彼岸法要 9月23日㊦』



彼岸花が咲くなかでのお彼岸法要でした。



◆秋奉加



今年も農家の檀徒の方々から新米の奉納を頂き、早速お会式のお齋に使わせていただきました。ありがとうございます。

◆陶展・写真展 11月12日金～16日㊦



陶芸家・中野亘さん、写真家のミーヨンさんの作品展示を、『妙光寺の秋』と題して同時開催。紅葉の境内に沢山の見学者が訪れました。

◆『新潟命の物語をつむぐ会』第7回例会 11月6日㊦



檀信徒を含めて60名余りの方が参加して、8名の医師や僧侶の話に耳を傾けました。開会挨拶は代表の県立がんセンター内科部長今井医師。



◆境内管理作業



冬を前に職員2人で、落ちると危険な高所の枯れ枝を切りました。



寺のうごき



◆お会式と生前法号授与 11月7日㊦



日蓮聖人ご命日の法要『お会式』に併せて、今年は12名の方が生前法号を受けられました。研修後、一般檀信徒と共に法要に参列し手作りのお齋と記念品をお持ち帰り頂きました。



◆院首夫人なぎささん一周忌法要と納骨 10月9日㊦



10月15日の命日を前に100名を超える方々が一周忌法要に参列しました。法要後に新しいお墓まで、皆さんが並んで遺骨をリレーして運び埋葬しました。爽やかな秋晴れが心に染みました。

◆七五三参り 11月14日㊦



2家族5人の子供さんが「身体健全、学業増進」を祈願し、ご祈禱を受けました。

寺の記録を未来につなぐ

妙光寺では早いころから、檀信徒の記録管理にコンピュータを利用してきました。

大量の記録を管理するためには、技術者の手助けが必要です。

現在、妙光寺のコンピュータ管理を一手に引き受けているのは、

住職の従兄である名和さんです。

寺のIT利用の現状について、

そして進行中の「過去帳」データベース化について、うかがいました。



名和国光さん(59歳)
院首の次姉・征子さんの長男。良恵住職の従兄。子どものころは毎年妙光寺に遊びに来ていた。大学で情報学を専攻し、IT技術者として働いている。東京都八王子市在住。

Q 名和さんが、お寺の仕事に関わるようになったのは数年前からですね。いきなごを教えてください。

名和 妙光寺は僕にとつては「おばあちゃんの家」でした。でも最後に来たのは大学生の時で、良恵さんがまだ小さい頃です。8年前に母が、その2年後には父が亡くなり、安穩廟に入れていただきました。その時から、もとお寺の力になりました。と考えるようになりました。ちょうどその頃、妙光寺のコンピュータ管理も新しい課題が出てきていて、院首さまから「是非手伝ってほしい」と言われ、2013年

からお寺に通うようになりました。新しい課題というのは、どんなことですか？

名和 もともと安穩会員さんの台帳は、すべてコンピュータに入力して管理していました。一方で従来の檀徒さんの台帳は紙に書いたものをファイルしていたんです。その2つをまとめるとい課題がありました。それから、もし火事にでもなったらすべての台帳がなくなってしまうのでしっかりと保存したいという課題もありました。2つの課題を解決するために、2015年から檀徒さんと会員さんの台

帳をまとめて「クラウド化」する作業に取り組み始めました。「クラウド化」とはどういうことですか？

名和 世界中のあちこちに大きな記録用のコンピュータがあつて、そこにあらゆる国や企業の記録が二重三重に保存されている仕組みを「クラウド」といいます。世界の数十か所に記録用のコンピュータがあります。この「クラウド」に台帳を入れておけば、お寺に何が起ころうとも消えてなくなることはありません。

Q 妙光寺の記録の「クラウド化」は、今どうなっていますか？

名和 今は檀徒さんの台帳もコンピュータで管理できるようにして、安穩会員さんの台帳とともに「クラウド化」しました。それから昨年からお墓の写真も順次撮影して、各々の方の台帳に加えています。今までは「お墓の場所を教えてください」とおいでになる方に地図でご案内するだけでしたが、今は写真を添えています。わかりやすくなりました。

Q 「クラウド化」には費用がかかるのではありませんか？

名和 はい。私の母と院首さまは5人きょうだいですが、小さい頃に亡くなった姉妹が2人いたのです。幼い2人は今、なぎささんの墓の隣にある先々代住職夫妻の墓と一緒に眠っています。そのうちの1人の法号が「風香日薫童女」というのだと今知りました。実は私の娘の名前が「風香」といっていて、もちろんこの法号のことは知らずに名付けたのですが、命のつながりみたいなものを感じました。娘は生まれるべくして生まれたんだと思いましたね。

Q 思いがけないご縁もあったそうですね。

名和 はい。私の母と院首さまは5人きょうだいですが、小さい頃に亡くなった姉妹が2人いたのです。幼い2人は今、なぎささんの墓の隣にある先々代住職夫妻の墓と一緒に眠っています。そのうちの1人の法号が「風香日薫童女」というのだと今知りました。実は私の娘の名前が「風香」といっていて、もちろんこの法号のことは知らずに名付けたのですが、命のつながりみたいなものを感じました。娘は生まれるべくして生まれたんだと思いましたね。

Q 幼くして亡くなった方が、あらためて思い出されますね。

名和 亡くなったきょうだいですが2人いたという話は聞いたことがあったような気がします。妙光寺の「過去帳」には、子どもの法号が多いんです。昔はやはり育つのが大変なんですね。この記録を残していくことで、大人はもちろん子どもたちを思い出すことにつながるの、とても温かいことだと感じています。

これからもよろしくお願ひします。ありがとうございます。
(聴いた人 編集部・新倉理恵子)

名和 「クラウド」を運営している主な会社は世界に3つありますが、妙光寺が契約している会社は寺などの非営利団体に無料で「クラウド」サービスを提供しています。もちろん使える「クラウド」の大きさには制限がありますが、まだまだ十分使えるので大丈夫です。

Q 以前は毎週末お寺にいらしていましたが、コロナ後は月に1回くらい来ていました。次々と新しい仕事が出てきま

名和 私がお寺の大事なお仕事です。今は小学生の頃は、年末になると現在の院首さまが寺の「過去帳」のコピーを作つて、それを一人分ずつ切り離して本堂(現在の祖師堂)の梁に貼っていました。私もハサミで切り離す作業を手伝ったものです。お年始に来た檀徒さんは、自分の家の分をはがして年忌法要の申し込みをしていました。残っていると、その家の人に連絡していたそうです。本堂を建替えてからは今のように郵便でお知らせするようになりました。

Q それがコンピュータに記録されていくと間違いがありませんね。

名和 そもそもは年忌法要のご案内をきちんとしていこうということで、一周忌、三回忌、七回忌と各々の年回りの「過去帳」をコンピュータに入力する作業を3年前に始めたのです。年忌は百回忌まで14回あるので、飛び飛びの14年分を入力していきました。

Q 1611年まで遡ることになったのは、なぜですか？

名和 はい。江戸時代に2回火事にあつたようですが、その時もお坊さんが抱

Q 以前は毎週末お寺にいらしていましたが、コロナ後は月に1回くらい来ていました。次々と新しい仕事が出てきま

名和 私がお寺の大事なお仕事です。今は小学生の頃は、年末になると現在の院首さまが寺の「過去帳」のコピーを作つて、それを一人分ずつ切り離して本堂(現在の祖師堂)の梁に貼っていました。私もハサミで切り離す作業を手伝ったものです。お年始に来た檀徒さんは、自分の家の分をはがして年忌法要の申し込みをしていました。残っていると、その家の人に連絡していたそうです。本堂を建替えてからは今のように郵便でお知らせするようになりました。

Q それがコンピュータに記録されていくと間違いがありませんね。

名和 そもそもは年忌法要のご案内をきちんとしていこうということで、一周忌、三回忌、七回忌と各々の年回りの「過去帳」をコンピュータに入力する作業を3年前に始めたのです。年忌は百回忌まで14回あるので、飛び飛びの14年分を入力していきました。

Q 1611年まで遡ることになったのは、なぜですか？

名和 はい。江戸時代に2回火事にあつたようですが、その時もお坊さんが抱

まさに、四法に安住すべし

あんらくぎょうほんだいじゅうよん
『安楽行品第十四』

安楽行品では、お釈迦様亡き後の世界で、
法華経を弘める者たちが行動するときに心掛けるべき方針があらわされます。
これまでに、お釈迦様なき後の「末法」の世界で法華経を説くことがいかに困難であり、
時には迫害を受けることが示されてきました。

四つの実践——安楽行

それでもなお、布教に精進することを誓い、その方法を問う菩薩たちに、お釈迦様は「まさに、四法に安住すべし」と語られます。四法とは、身・口・意・誓願の「四つの安楽行」のことで、布教の心得や行動指針と考えれば分かりやすいでしょう。

(1) 身安楽行

「身安楽行」は、節度ある行動のことです。国王や大臣などの権力者・他宗教の信仰者・文筆家・格闘技を生業にする者・家畜を飼育する者・女性や男らしくない男性に近づいてはいけなさと説かれています。誰にでも平等に教えが説かれる法華経の中に、こうした表現があることは、違和感がありますが、あくまで「まだ人に教えを説くことに未熟な菩薩」へのアドバイスです。布教が難しい相手に、いきなり近づいてはいけないというのが本質でしょう。これらの人々であっても、興味を持って学びに来るならば、畏れずに法を説きなさいと続けられ、最終的には差別や偏見を離れることが示されています。

(2) 口安楽行

「口安楽行」は、口に関する振る舞いのことです。喜んで人を批判したり、法華経以外の教えの過ちを指

摘したりして、布教してはいけない。間違った修行をしている個人名をあげつらうてはいけません。常に穏やかな顔で人々に向き合いなさいと説かれています。

(3) 意安楽行

「意安楽行」は、法華経を説く者の心の在り方のことです。嫉妬や怒り、驕り、諂い、といった感情を抱かず、怠けず、常に飾らず正直でいなさい。同じ修行者たちを尊敬しなさいと説かれています。

(4) 誓願安楽行

「誓願安楽行」は、誓って願うことです。全ての人々に慈しみの心を抱き、救っていこうと決意することです。また、自分以外の人々にも慈しみの心を抱かせ、法華経を信じるよう努力していく誓いです。身・口・意のそれぞれの心得にしたがい、慎み深く行動し、人を救うという使命を忘れないこと。そのための、ひたすら柔軟なやりかたが分かりやすく説かれています。

法華経前半の最終章

また、安楽行品は法華経前半、迹門の最終章です。後半部分にあたる本門が、仏様の本来の姿を顕した教えであるのに対し、迹門は私たちに教えを説くために顕した姿が説かれてきました。

角田山妙光寺インフォメーション

新型コロナ対策

新型コロナは収束傾向を見せていますが、その理由は不明だそうです。そのため第6波の感染拡大も注意が必要とされています。

来年の御札を届けながらの檀徒宅へのお経回りは、これまで同様マスク着用等感染対策に注意してお伺いします。日程は事前にお知らせしています。月例の信行会は例年通り冬期間お休みします。除夜の鐘は屋外ですので例年通りとし、正月年始参りは今年と同様に飲食自粛で日程変更なく行います。春以降の方針は次号でお知らせします。

山林整備

歴代住職と弟子のお墓の移転にあわせて、周囲に野鳥とリス、ムササビの餌が実るような樹木を植栽しました。今後も維持管理費用を膨らませない方針で、整備を続ける予定です。春の芽吹きが楽しみです。



実のなる樹木を植栽

庭石、残土処分に困っていませんか

庭を壊して車庫を広げるのに処分が困ったという方から、庭石をいただきまし。同様に土の処分に困る方もあるようです。山林整備のために低地の埋め立て用土と、土留めの石を探しています。搬送費用はご負担願います。ご近所やお知り合いの方からでも結構です。ただし庭木は、経費がかかるわりに枯れる可能性が高いので原則お断りしています。



大量にある剪定したストーブ用薪

お守り型緊急時連絡カード

別紙ご案内の『お守り型緊急時連絡カード』はお守りの効果でしょうか、幸いにしてそうした連絡は未だありません。継続の方を優先し、しばらくは100名限定とさせていただきます。新規ご希望の方はお早めにお申し出ください。

ストーブ用薪差し上げます

境内の樹木を剪定した枝が大量にあります。焼却できません。産廃としての処分は費用がかさむため、敷地内に積み重ねてあります。近頃は薪ストーブ用と希望があります。細断と運搬が必要ですが、どなたでも受付にお声がけして好きなだけお持ちください。

「安徳廟」残余区画の状況

新型コロナが収束傾向になった途端に、安徳廟の問合せと新規申込みが増加しています。このペースでは現在受付中の池の上安徳廟も来年中に無くなりそうです。さらなる造設は今後の検討課題としていきます。





Q 「お寺の過去帳」はどれくらい古いのですか？

2度の火災を経て守り続けられて来ました

「お寺の過去帳」は檀徒のお葬式をするお寺には必ずあるもので、故人の法号（戒名）を記録した台帳です。年代順に命日と法号が記載されています。

妙光寺には410年前の慶長16年からの記録があります。その後313年前と265年前に、2度の火災に遭いましたが、過去帳には348年前の延宝1年ころからの記録がしっかり残っています。火災の中、この過去帳を運び出したことがうかがわれます。

「お寺の過去帳」は戸籍制度よりはるかに古い

日本の戸籍制度は明治4年に始まりましたが、士族や平民など個人の身分まで記載されていることが後に問題視され、明治19年分までは国によって封印されました。

さらに現在の戸籍保管義務は150年間です。これも平成22年に改正されたもので、それまでの保管義務は80年間でした。そのため昭和4年以前の故人を調べる除籍簿を閲覧することが出来ない自治体もあります。現在の日本では古い家系を調べる手だては「お寺の過去帳」しかありません。

妙光寺の過去帳をデータベース化しています

戦前の戸籍と同じように、「過去帳」も個人単位でなく家を単位として記録されてきました。そのため当時は屋号だけで、法号と没年齢しかありません。（そもそも明治時代以前一般庶民には苗字がありませんでした）最近では屋号が使われなくなり、故人同士の関係確認が困難になってきました。そこで故人ごとに番号を付けて、分る範囲で生前の名前を探り、家族単位で整理しながらパソコンに入力する作業をしています。これをデータベース化といいます。没年齢が数え年のため、パソコンの力で瞬時に故人の生まれた年が計算出来ることも分りました。

過去100年分の入力完了しましたが、平均で1年に30人としても3000人です。最終的には1万人超になる計算ですが、古い時代になればなるほど家が絶えたり関係不明の故人名も増えたりしますので、作業は速く進むと考えています。絶家もあれば、400年前から現在まで続くお宅もあります。完成すれば本家分家の関係を含めて皆さんの家系図が作りやすくなり、「ご自身の古い来歴が分かるかもしれません。」

（院首記）

